

CLPAの会員になると...

まずはレジスタート会員へ入会し
仕様書を手に入れよう!

最新のCC-Linkの仕様を知って、他社に先駆けた製品開発ができます。
CC-Linkの仕様書を無償で入手できます。
CC-Link製品を使用してビジネス拡大が図れます。

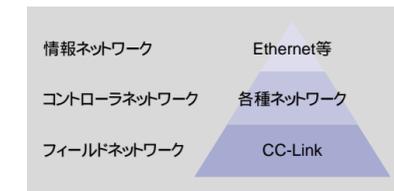
会員区分	レジスタード	レギュラー	エグゼクティブ	ボード
年会費	-	10万円	20万円	100万円
入会金	-	-	-	100万円
プロトコル仕様書の入手	(会員からの申込みに応じて無償提供)			
CC-Link技術使用権	-	-	-	-
コンフォーマンス テスト料金 (1機種)	リモートデバイス I/O版、ケーブル マスター-ローカル インテリジェント デバイス版	20万円	10万円	年会費に 含む
CC-Linkロゴの使用	-	30万円	20万円	
技術サポート	-	-	-	-
ホームページへの 製品掲載	-	-	-	-
製品カタログ・技術資料 への製品掲載	-	-	-	-
展示会への出展	-	-	-	-

CC-Linkとは?

CC-Linkは、FAシステムにおける多様なユーザーニーズにお応えする為、制御と情報のデータ処理を同時に、しかも高速で実現できるフィールドネットワークシステムです。

Key Word

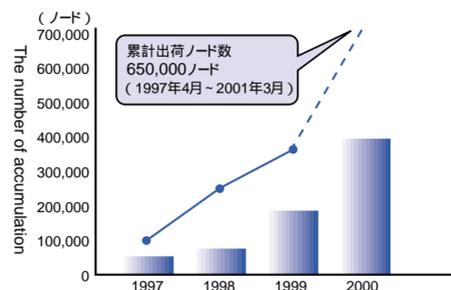
- ・拡大するマルチベンダ環境
.....豊富な品揃えから選択
- ・高性能なネットワーク
.....最大10Mbpsの高速通信
- ・小配線・低コスト
.....生産ライン構築のシンプル低コスト化



CC-Linkの普及度は?

CC-Link対応製品の出荷実績も順調に拡大しており、99年度出荷実績数は17万ノード(前年度比3.5倍)に伸長、また2001年2月末時点でパートナー会員数も158社、接続製品数は260機種を越えるに至りました。

今後も多くのメーカーの参加が見込まれており、様々な用途、分野に適用したCC-Link対応機器のバリエーション強化に今後も取り組み、"使い易さ"を追求していきます。



海外だより

CC-Link協会では、2001年3月から7月にかけて、下記海外展示会への出展を予定しています。

展示会名称	展示国	開催期間
NMW(National Manufacturing Week)	米国(シカゴ)	2001/3/5～8
Hannover Messe	ドイツ(ハノーバー)	2001/4/23～28
Kofa	韓国(ソウル)	2001/5/22～25
IA2001	シンガポール	2001/6/5～8
国際自動化工業大展	台湾(台北)	2001/6/29～7/2

<出展パートナー>
(株)アドバネット、NKE(株)、(株)イー・アンド・デイ、SMC(株)、オーム電機(株)、川崎重工業(株)、倉茂電工(株)、コフロック(株)、(株)コガネイ、SUNX(株)、サンテスト(株)、(株)シマデン、神港テクノス(株)、住友スリーエム(株)、住重制御システム(株)、(株)デジタル、東洋電機(株)、日本電産シンボ(株)、発紘電機(株)、(株)ピーアンドエフ、フェスト(株)、北陽電機(株)、マイコム(株)、三菱電機(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)安川電機、ヤマハ発動機(株)、ユニバリス(株)、横河エム・イー・ティー(株)、理化学工業(株)

専門部会活動スタート

CC-Link協会発足時に参加募集しました、専門部会の活動がまもなくスタートします。幹事会にて選出された部長のお二人に今後の抱負を語っていただきました。

部会参加は随時受付中です。未加入のパートナーのみなさん、ぜひご参加を(申込用紙はホームページに掲載してあります)

テクニカル部会(参加社数:19社)

CC-Link協会は、会員皆様の製品、技術のすばやい発信もとして活用される場であり、テクニカル部会はその関連共通技術のとりまとめを行い、メンバ各位に広く利用いただくとともに、外部の標準化団体等へ、その技術の発信を行っていく場であります。

発足したばかりの協会のテクニカル部会として、取り組む課題は山積みされていると思いますが、皆様のご意見・ご要望を取りまとめ、マーケットのニーズ、国際標準化の現状、今後の動向などを勘案し、その優先度を決めて効率的に実施していきたいと思ひます。

CC-Link協会はFA分野における国際的なコンソーシアムとしてはおくてですが、関口会長の言葉にもありますように、日本発の初めての国際コンソーシアムとして現場重視のきめの細かい技術の発信に自信を持って取り組んでいきたいと思ひます。



テクニカル部会長
三菱電機(株)中野宣政氏

マーケティング部会(参加社数:18社)

CC-Link協会の発足に伴い、CC-Linkの普及拡大のためにマーケティング部会の活動もスタートしました。

マーケティング部会では会員拡大の活動、展示会・ホームページなどをとおしてのCC-Linkの認知度向上・採用拡大の活動を中心に運営します。

運営を開始して日がまだ浅いのですが、「魅力ある協会・部会にするためには何をしたらよいのか?」、「SCFを盛り上げるためにはどうしたらよいのか?」、「ホームページも拡充しなくちゃ!」など、早くも課題が山積みです。

皆様のご支援ご指導のもと、世界に向けたオープンなネットワーク普及に向け、皆様と協働してマーケティング部会を運営しダイナミックな活動を目指してまいりますのでよろしくお願いいたします。



マーケティング部会長
(株)デジタル 足立裕史氏

CLPA Information

昨年11月に、日本発のオープンフィールドネットワークとしてCC-Link協会の活動がスタートしました。CC-Linkの普及拡大・産業界への貢献のために、読者の皆様のご意見ご要望を反映しながらよりよい活動にしていきたいと考えております。皆様の声を是非、事務局までお寄せください。

CLPA会員数:158社(2001年2月現在)

<2000年11月～2001年2月入会 24社>

SEMIスタンダード(SEMI E54)取得間近!

日米タクスフォースの協力により進めてきたCC-LinkのSEMIスタンダードの取得が間近に迫りました。Yellow Ballotの投票が2月21日に締切られ、最終レビューが3月22日に北米SEMI Information & Control Committeeで実施予定です。早ければ3月中に取得決定。皆さんご期待ください!

〒461-0011
名古屋市東区白壁3丁目12-13
CC-Link協会
事務局長 原田 昭男
TEL(052)936-6050 FAX(052)936-6005
E-MAIL:cc-link@post0.mind.ne.jp
URL:http://www.cc-link.org



日本発のオープンフィールドネットワーク CC-Link協会の活動スタート!!

CC Link協会 会長 関口 隆

CC Link協会会長をお引き受けすることになった関口です。

私は横浜国立大学で40年来、電気工学分野からの制御・システムを専門として、研究・教育に携わってきました。

私達は今まで、日本の生産技術は世界のトップであると自負してきましたが、最近では情報・通信技術の導入・活用をめぐってむしる欧米に遅れている観があります。御存知のように、アメリカでは1970年代の生産力の落ち込みを反省し、1980年にパイ・ドール法を成立させ、大学の発明特許を連邦所有から各大学に移したのを契機に、情報と通信の分野を中心にして今日の隆盛をもたらしています。

我が国においても現在の生産技術を更に活性化させ、時代の要求に合わせて発展させるためには情報と通信の技術革新が主役を演じなければならないと確信いたします。この情報・通信技術革新を推進するための基盤が誰でも、いつでも、容易に利用できるネットワークであることは論をまたないところでは。



関口会長と幹事メンバー(広報発表にて)

幸いにして、今日CC Link協会が発足したことにより世界に向けたオープンネットワークを我が国からも発信することができるようになりました。すでに欧米では先発のオープンネットワークが存在します。しかし生産現場のネットワークは各現場の多様なニーズに応える必要があるため、単一のオープンネットワークのみで世界の要求を満たすことは不可能です。我が国の技術は従来より、使用者の立場を考慮したきめ細やかさが特長であり、ネットワークにおいてもこの点は特徴として活かすことにより、世界標準としての寄与が可能であると確信いたします。このネットワーク技術は少数者の専有に寄すべきものではなく、今後も改良を重ねて、インフラとして世界中のより多くの生産現場で採用されるようになることを願っております。

協会設立の中心となったパートナーである、ウッドヘッドジャパン(株)、(株)コンテック、(株)デジタル、日本電気(株)、松下電工(株)、三菱電機(株)を中心にパートナーの皆様と御協力を頂きながら我が国の、更には世界の産業界発展のために微力ながら尽力する所存です。よろしくお願いいたします。

